



前期期末考査が終わり、答案が返却され始めていると思います。思ったような結果となっていますか？結果に一喜一憂することなく、事前の計画に無理はなかったか。費やした時間は十分であったか。取り組み方は・・・。一つひとつ振り返って、自分の力を伸ばすために、前向きに取り組んでいきましょう。

「テスト終わったばかりだし・・・」と言わずに、利府Style新企画第6回を読んで、学ぶ意欲を充電しよう!!

第6回

島根大学 法文学部 言語文化学科 英米言語文化研究室 宮澤 文雄氏が語る「学びの魅力」

【自己紹介】

利府高生の皆さん、はじめまして。島根大学の宮澤です。なぜ島根県の大学教員が『利府style』に登場するんだと怪訝に思った方もいらっしゃるでしょう。もともと大学・大学院は仙台で過ごし、就職先が島根だったのです。このたびはご縁があって、皆さんにお話しする機会を頂きました。かつて進路に悩んだ自分の経験を交えながら、また大学教員という現在の立場から、進路や大学の学びについてお話ししていきたいと思ひます。



(1) 進学先を検討するにあたり、考えておくこと。入学後に伸びる学生とは・・・?



「大学や短大ってどんなところですか？」と皆さんに聞かれたら、「あなたの興味関心のタネを育てる場所だよ」と僕なら答えます。だから、進学先を考える際、自分は何んなタネを持っているか知ることが大切です。好きな科目、得意な科目、夢中になれることは何ですか？まずはこれくらいのことを糸口に考えましょう。

僕は、高校のとき、サッカーでプロを目指していましたが、最後の大会を前に左足の靭帯を切りました。幾度も怪我を乗り越えてきましたが、このときばかりは「もうだめだ」という声が心の底から聞こえました。サッカーしかやってこなかった自分には、進学する目的もなく、働きたいという気持ちもありませんでした。このままではいけないという焦りだけを抱え、高校を卒業しました。それから間もなく、山形県の尾花沢でスイカを栽培している親戚から手伝いにきてほしいと声を掛けられたとき、二つ返事で応じました。それだけ状況を変えたかったのです。

スイカ栽培を通してわかったことがあります。農業は知的労働だということです。それまで体力さえあれば農業はできる、のんびりとした仕事だと思っていましたが、実際にやってみてすぐに間違いに気づきました。作業工程はシステムティックで、植え方一つとってみてもいかに効率よく生産性を高めるか計算されていたのです。その瞬間、どんな仕事でも頭を使わなければならないと悟り、学びたいという意欲が湧いてきたのを覚えています。

そこで自分の興味関心のタネを探すため、高校時代の学びを振り返りました。社会の授業が好きで、特に西洋史に夢中になったこと、海外小説をよく読んでいたことに気づきました。「西洋の文学」、これが自分の学部学科選びの決め手となり、最終的に英米文学を学べる大学に絞りました。目標が決まると、あとは目標までの距離を測り、達成するためのプランを月・週・日毎に立て、やるべきことに集中しました。一日のメニューを決めてしまうと悩まずに勉強できます。英語の成績は下のほうでしたが、人は目標を見つけると、驚くべき力を発揮するものです。自分を振り返っても、また教員という立場から見ても、「伸びていく学生」というのは、自ら目標を立て、それにひたむきに向かっている方だと思います。

サッカーという若芽は潰れてしまいましたが、現在のアメリカ文学研究者に通じるタネが僕にはありました。皆さんもまだ気づいていないだけで、いろんなタネを持っています。これだというタネを見つけたら、育てるのにふさわしい土壌（進学先）を検討してください。それは、目の前に新しい世界が拓かれていく、とても楽しい時間となるはずですよ。

(2) 所属する大学の一押し情報と魅力



(島大生と留学生が作成したフランス語の観光パンフレット)

僕は、島根大学の中でも **法文学部 言語文化学科 英米言語文化研究室** に所属しています。このように大学は、専門分野にしたがって学部 → 学科 → 研究室と分かれていきます。この細分化によって、同じ学問的関心を持つ人たちが集められていきます。

さて、言語文化学科では何をどんなふうに学んでいくのでしょうか。この学科は、**日本、中国、英米、ドイツ、フランス、哲学・芸術・文化交流の6研究室**からなり、語学と文化と思想を軸とした学びを展開しています。言語文化学科を一言でいえば、**〈自分らしさを育てる学科〉**です。一般的に、ある研究室に所属すると専門分野が固定され、他の研究室の授業は取りにくくなり、交流も少なくなります。しかし、言語文化学科では、どの研究室に属していても他研究室の授業を自由に履修できます。つまり、自分の興味関心に応じて学びを組み合わせることができるため、1つの専門を極めてもよいし、専門を軸に様々な分野を取り入れた学際的な学びを選んでもいいのです。例えば、**語学に関心のある学生**は、英米の研究室にしながら、フランスの研究室でフランス語を習得しています。**文学に関心のある学生**は、日本文学、中国文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学について網羅的に学んでいます。また、表現型の学習として、**映画製作や小説創作の授業**もあります。さらに、**海外への短期研修から長期留学まで充実**しています。このように、外国語を身につけたり、文化・芸術を読み手と作り手の両面から学んだりしながら、自分らしさを育てていけるのが、言語文化学科の魅力です。

皆さんにとってまだ島根県は身近でないと思います。しかし、仙台空港と出雲空港を結ぶ直行便ができたことを知っていますか? そのおかげで、とても行き来しやすくなりました。移動時間はわずか85分、新幹線はやぶさで仙台から東京に行くよりも早いです。また、在学生のうち県外出身者は8割です。全国、世界各国から学生が集まっています。「地方国立大学」という言葉では測れない魅力が、新しい世界が、豊かな出会いが島根大学にはあります。**「進学」は新しい生き方をするチャンスです。**見知らぬ土地で一人暮らしだけでも大変ですが、大半の学生がそうしています。分かち合い、共に成長していける仲間がきっと見つかります。

今回は言語文化学科だけを紹介しましたが、島根大学は、法文、教育、人間科学、総合理工、生物資源科学、医の6学部からなる総合大学です。気になった方は、**大学HPやYouTube動画(島根大学チャンネル)**でどんな大学かのぞいてみてください。そして、今年から**「へるん入試」**というユニークな総合選抜型入試が始まります。あなたの学びのタネが生かされるかもしれません。

《学部紹介Movie》



《島根大学チャンネル》



《へるん入試》



(3) 高校生に望むこと。アドバイス

世界中のすべての大学・短大があなたの選択肢です。だから、どこを目指してもよいと思います。しかし、行きたい進学先が見つかったものの、偏差値や経済的な理由などであきらめなければならないこともあるでしょう。それでも、もう一度検討すべきです。偏差値は計画的な学習で変わります。経済的な理由があっても奨学金(返済義務のないものもあります)など利用できる支援制度を探し、4年間の生活プランを立ててみて、本当にできないのかどうか確かめてみるべきです(実際、奨学金を借りず、学費も生活費も4年間すべて自分でやりくりした教え子がいます)。また、二つの進学先で迷うことがあれば、想像できない未来が待っているほうを選んでください。皆さんの人生を豊かにするのは未知の道だからです。



(卒業論文の中間発表会)

利府styleキーワードは「なぜ、学ぶのか?」次回へ続く・・・。